

いもち病および熱中症対策について

いもち病の防除は初発から！

「いもち病」は初発で防除を行う事が重要です。田植え後、圃場をよく観察して、発生した場合は基幹防除前でも、早急に補正防除を実施しましょう。

使用する薬剤は、稲作暦や下記を参考に使用時期や使用回数を確認して、選択してください。

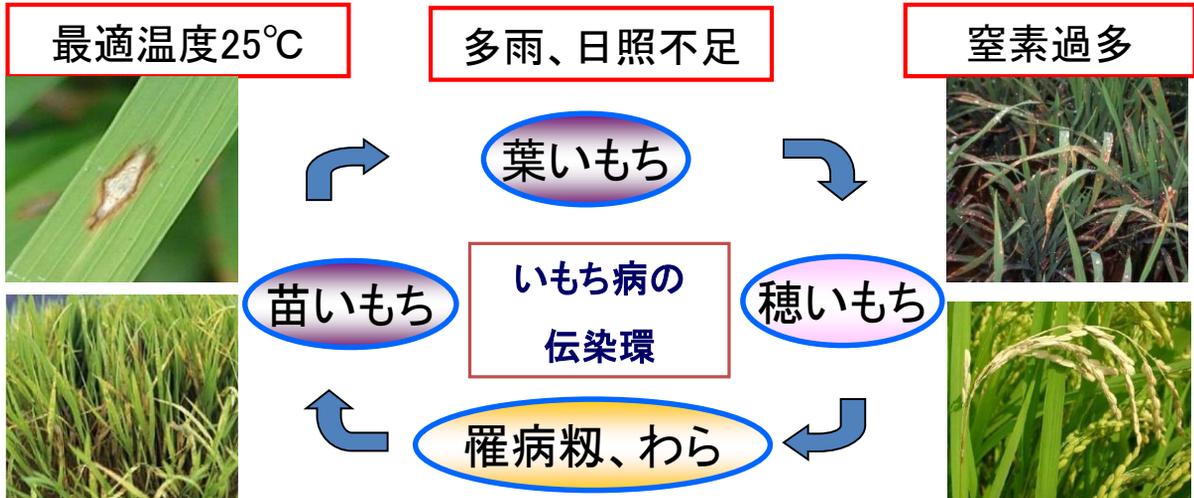
いもち病は直接的な減収要因となります。いもち病が発生しやすい条件下では、防除が遅れるとそのほ場だけでなく地域に蔓延します。

【本田での対策】

- ① **いもち病に対する成分が入った箱施薬剤を使用する(重要)**
- ② 老化苗やいもち病に感染した苗を移植しない
- ③ 置き苗(補植用)は補植が終わり次第直ちに処分する(ひっくり返しておくとも枯れます)
- ④ 葉いもち防除は発生初期、穂いもち防除は出穂直前(5日前まで)に実施



置き苗から本田へのいもち病侵入



名称	使用量	使用回数	使用時期
コラトップ ジャンボP	10～13パック	2回まで	葉いもち: 初発20日前～初発時 穂いもち: 出穂30～5日前
ノンブラス 粉剤DL	3～4kg/10a	2回まで	発生時 (収穫7日前まで)

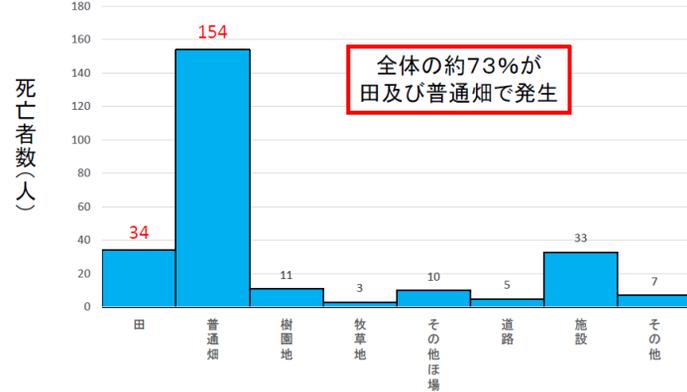
農作業中の熱中症による死亡事故の発生状況（農林水産省HPから引用）

農作業中の熱中症は、自分では自覚していないケースが多くあります。特に、高齢の農業従事者については、脱水症状を起こしやすく、こまめな水分と塩分の補給や休憩をとるよう周囲の方が協力して声掛けを行うなどの対策が必要です。また、最高気温30度を超えると重症化しやすいので、可能な範囲で高温時には作業しないことも視野に入れてください。

農作業中の熱中症による死亡者数
年代別（平成23～令和2年）



農作業中の熱中症による死亡者数
場所別（平成23～2年）



熱中症が疑われる場合の処置

1. 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょう

☀ 代表的な症状は以下のとおりですが、熱中症には特徴的な症状がなく、「暑い環境での体調不良」は全て熱中症の可能性ががあります



2. 応急処置を行いましょ



- ☀ 涼しい環境へ避難しましょう
- ☀ 服をゆるめて風通しをよくしましょう
- ☀ 水をかけたり、扇いだりして体を冷やしましょう
- ☀ 水分・塩分を補給しましょう

脇の下、両側の首筋、足の付け根を冷やすと効果的です

